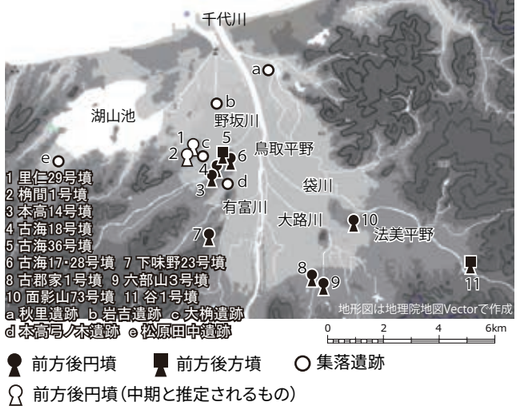
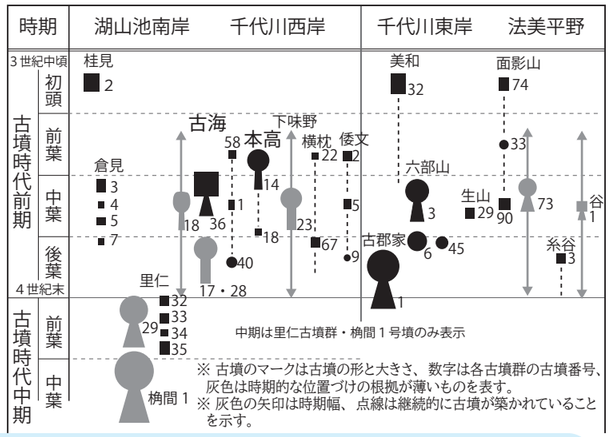
鳥取平野の古墳時代前期の前方後円（方）墳と集落遺跡



鳥取平野における古墳時代前期の主な古墳の変遷





本高・古海古墳群

鳥取平野の千代川左岸に所在する本高・古海古墳群は、本高古墳群で22基、古海古墳群で65基の、合計87基の古墳が知られています。

古墳群内には前方後円墳・前方後方墳が合計4基見つかっていて、鳥取県東部（因幡地域）最多の前方後円（方）墳を擁する古墳群です。このうち本高14号墳は発掘調査によって県内最古級の前方後円墳であることが明らかにされています。また、古墳時代最終末に造られた山ケ鼻古墳は横口式石槨という特異な横穴式石室をもっています。このように、この古墳群には古墳時代の初めから終わりまで、鳥取平野を代表する古墳が築造されており、因幡地域の古墳群の中で重要な位置を占めていたと考えています。



本高 14 号墳

本高古墳群は、一般国道9号（鳥取西道路）の建設に伴い、7基の古墳が発掘調査されています。その内、本高14号墳は全長63mの県内最古級と考えられている前方後円墳です。この古墳は、この地に古墳が築造され始めた頃にヤマト王権に認められた地域の首長墓と考えられています。



小型仿製内行花文鏡



勾玉・管玉

本高 14 号墳埋葬施設３出土遺物

＜出典＞鳥取県教育委員会 2010『本高古墳群』を一部改変

鳥取県埋蔵文化財センター
住所：〒６８０－０１５１
鳥取県鳥取市国府町宮下１２６０
電話：０８５７－２７－６７１１
E-mail maibuncenter@pref.tottori.lg.jp



2026 年度

鳥取県埋蔵文化財センター

古海 36 号墳現地説明会資料

後方部頂部から並んで出土した壺

鳥取県埋蔵文化財センターでは、2023 年度から本高・古海古墳群の調査を行っています。この古墳群には、県内最古級の前方後円墳である本高 14 号墳をはじめ、大型の前方後円墳・前方後方墳が近接して築造されており、その変遷などを調べることによって、鳥取平野の古墳時代開始期の様子を明らかにすることを目的としています。今年度は 2024 年度・2025 年度に引き続いて、古墳時代前期（1700 年前）に造られた全長 67mの前方後方墳である古海 36 号墳の、埋葬施設（墓穴や棺）の位置や数などを確認するため、後方部の頂上の発掘調査を実施しました。

【2026 年度調査の概要】

1 調査期間　2026 年６月８日から 11 月６日まで（予定）

2 調査箇所・面積　後方部頂部・約 140 ㎡

3 古海 36 号墳の調査で分かったこと

◆鳥取県最大の前方後方墳で埋葬施設を４基確認。当地の有力首長の墓の様子が明らかになった。

◆土器が埋葬施設の上に並べられた状態で出土。山陰の古墳時代前期の前方後円（方）墳の中では、古墳上の土器配置が分かった初めての例で、当時の葬儀の具体的な様子を知る手がかりとなった。

◆本高・古海古墳群では古墳時代前期に前方後円（方）墳が連続して造られたことが明らかとなった。付近に有力首長の存在がうかがえ、当時の社会構造を解明する手がかりが得られた。

埋葬施設２

東西方向に長い長方形の墓穴です。部分的に掘り下げた箇所で、木の棺を埋めた様子が確認できました。木棺が腐ってつぶれたため、地面が落ちくぼんでいます（木棺痕跡）。

埋葬施設の上には、高坏（脚台の付いた皿）、小型丸底壺、小型器台（壺を乗せるための台）などの、小型の飲食用の土器が集めて置かれていました。



木棺の断面


土器の出土状況

埋葬施設３

南北方向に長い長方形の墓穴です。部分的に掘り下げた箇所で、木棺が腐って凹んだ穴に溜まったと推定できる腐植土を確認できました。

埋葬施設の上から、数個体の高坏がばらばらの状態で出土しています。


土器の出土状況

埋葬施設４

南北方向に長い長方形の墓穴です。埋葬施設2と同じく、地面には木棺痕跡が見られます。この埋葬施設の上には土器の集中はありませんでした。

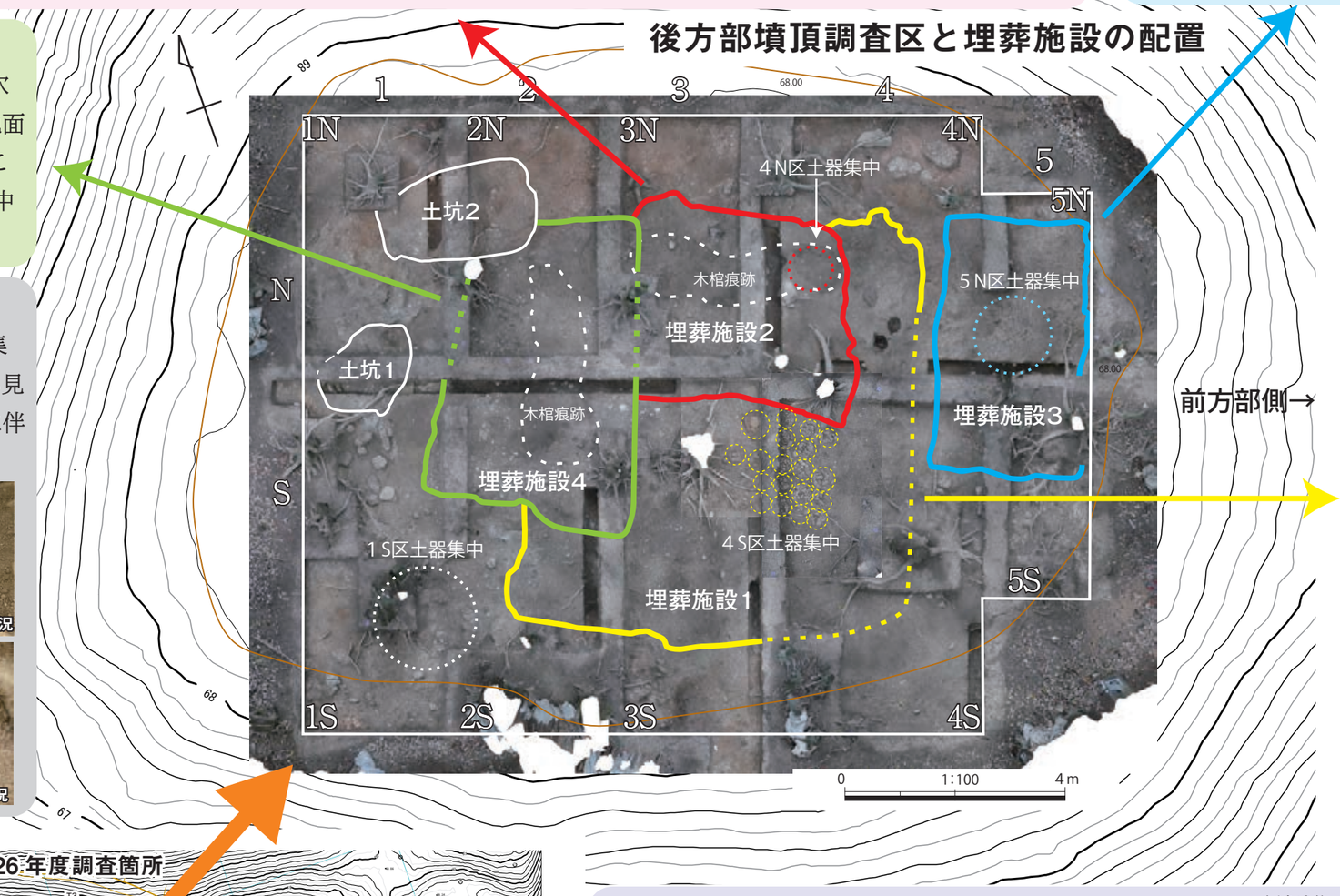
１S 区土器集中

数個体の高坏や器台などが集中して出土しました。位置から見て、埋葬施設1か埋葬施設4に伴う可能性を考えています。


高坏の出土状況

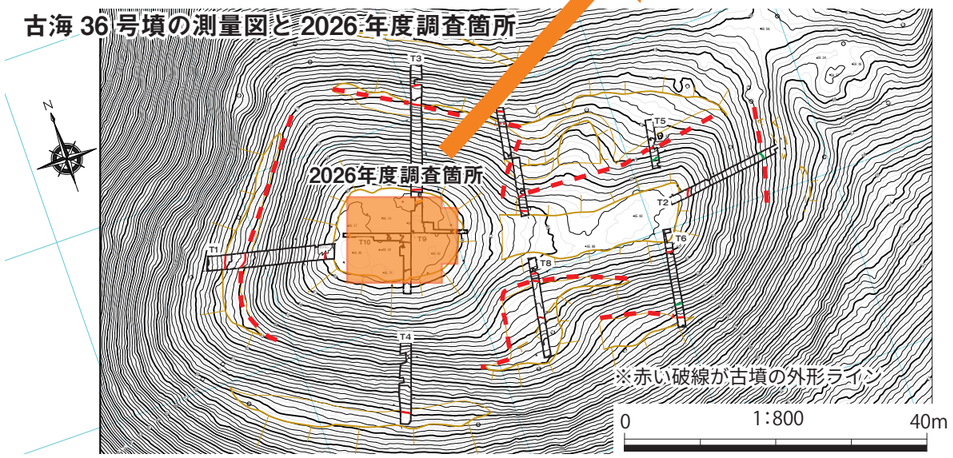

器台の出土状況

後方部墳頂調査区と埋葬施設の配置



前方部側→

古海 36 号墳の測量図と 2026 年度調査箇所

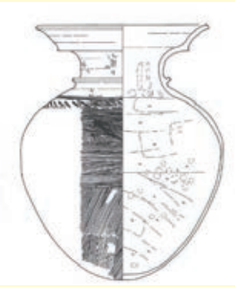


埋葬施設１

この古墳で最初に造られた墓穴で、大きさも群を抜いて大きいことから、この古墳の主が埋められていると推定できます。

埋葬施設の上から、約 20 個体の同じ形の壺が密に並べ置かれた状態で出土しました。これらの壺は地面に浅い穴を掘って据え置かれています。全国的に見ても例のない特異な土器の配置方法です。

【出土したものと同タイプの壺】


鳥取市岩吉遺跡出土例

【出典】鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団編 1991『岩吉遺跡Ⅲ』


並べられた壺

古海 36 号墳に葬られた人物は？ 今回の発掘調査では、古墳の墳頂部から4つの埋葬施設を確認しました。これらは部分的に重なっているので、前に造られた埋葬施設の一部を掘り返しながら、新しい埋葬施設を造ったことが分かります。その重なり合いの様子から、埋葬施設1→2→4の順に造られたことが確認できます（埋葬施設3は1より新しいことだけ判明）。埋葬施設1に葬られているのがこの古墳を造るきっかけとなった人物で、周辺の村々を束ねた有力者だったのでしょう。では、ほかの3つの埋葬施設に葬られたのは誰か？

最近の研究成果によると、古墳時代前期は、兄弟姉妹同士が同じ古墳に葬られるのが原則だったようです。古海 36 号墳にも、有力者とその兄弟姉妹が葬られているかもしれません。

古海 36 号墳で見つかった埋葬施設

遺構名	規模	棺の種類など	対応する土器集中
埋葬施設 1	東西 7.4m／南北 7.7m	不明	**4S 区土器集中** 上面に壺約 20 個体密集配列
埋葬施設 2	東西 4 m以上／南北 3.8m	木棺	**4N 区土器集中** 木棺痕跡落ち込み内で高坏、小型丸底壺、鼓形器台、壺出土
埋葬施設 3	南北 4.6m／東西 2.6m	二段墓壙・木棺	**5N 区土器集中** 上面で数個の高坏等が出土
埋葬施設 4	南北 6 m／東西 4 m	木棺	なし